

会員数(56・4現在)

逗子地区 150名

葉山地区 262名

大船地区 62名

合計 474名

# 吟道月報

日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

56・4月  
第105号

発行者

根岸 岳萃  
編 集 岳風  
中村 愛雪  
杉山

## 銀詠支部のおいたち

銀詠支部長 橋 本 果 風

昭和四十七年春の頃、当時銀座商店街の事務を執っていられた三浦秀山さんに吟をすすめられ、商店街の同好の方々が集い始めたのが最初のことです。吟の師三浦さんは登喜和流吟詠会に所属しておられ、非常に温厚な人柄で常に謙虚な姿勢を保たれていられましたが、その秘めた情熱は若い人をもしのぐ方であったなと今でも当時の事が思い出されます。

その頃私共は、まず最初は発声の基礎を身につける為、金州城を約半年位の間練習をつけていただいていました。その年の暮に三浦さんが病気で入院され、吟の集いはそのまましばらく休んでおり、昭和三十九年春、当時銀座商店街の事務を執っていられた三浦秀山さんに吟をすすめられ、商店街の同好の方々が集い始めたのが最初のことです。吟の師三浦さんは登喜和流吟詠会に所属しておられ、非常に温厚な人柄で常に謙虚な姿勢を保たれていられましたが、その秘めた情熱は若い人をもしのぐ方であったなと今でも当時の事が思い出されます。

その後当時の碩心会々長、三井先生の御紹介で千葉先生をお迎えして以来今日迄、約八ヶ年の間御教授を頂いております。今ふりかえってみますと、私共商店街の中にも、仕事に追いかけられ、役務に追われ、週一回のおけいこに出かけるのが

精一杯で、なかなか家の中での練習が身につくきません。又回を重ねるうちに詩も難かしくなり、詩の奥の深さが分りかけると、いつかやめようかと思つた事もあればありましたが、しかレ一日の疲れを湯舟にせず、思わぬ口をつく吟の中に、ふと三浦さんの顔が浮んでくる事があります。「吟の集いを経てほレハ」何故かさう言っているように感じられるのです。

現在は始めた当初の五、六名から十六名へとお仲間もふえ、楽しくもあり、嬉しくもあり、ここまでやってきてよかつたなと思つております。吟の道につながる多くの先輩、そしてお仲間の方々、今後とも何分のおつき合ひをお願いして拙文を終わります。

● がんばって!!

先月号で満八十文以上の会員の方を御紹介いたしました。もう一人いられますので、御紹介いたします。いつまでもお元気で、  
 逗子A支部 金指萌 明治33年11月19日生。

碩心会支部別会員数一覽表 (56.4現在) 計474

大船地区		崇山地区				逗子地区		
大船A	15	根岸	堀内A	19	根岸 佐藤	逗子A	35	根岸 石津
大船B	15	三井 森田	1 B	16	加藤(圭)	1 B	13	三井
戸塚	11	鈴木(幸)	1 C	7	小峯	松山A	15	三井
松和	21	三井 下篠	1 D	22	中村(幸)(愛)	1 B	19	広瀬
			1 E	11	白井(寿)(麗)	沼間	17	三井 松野
			1 F	10	矢島	山ノ根	10	三井
			一色A.C	22	守谷 鈴木(秀)	鈴詠	18	千葉(剣)(香)
			1 B	44	加藤(秀)	葉月	12	広瀬
			下山口	23	加藤(秀) 沼田	真澄	11	村田
			吟甫	9	渡辺			
			長柄	11	竹石			
			諏訪	12	井沢			
			上山口	10	秋元			
			元町	9	秋元			
			滝の坂	18	上村			
			木の下	7	石渡			
			風早	12	杉山			
4	62		13	262		9	150	

## 同好の志

その日は春先にしてはちよつと  
うすら寒い日であつたが、吟合せの  
ため、同好の志が三人程みえられた。



吟合せも終つて手作りのちらしをつつきな  
がら庭をみまると、何とハハ小鳥が、二、三羽  
芝生におりたちさがんに餌をつゝはてはる。  
杏の花はもうホロホロと散りはじめたが、隣  
りの海裳の花はまさに娘十六、花なら蕾とい  
うところか、蕾の濃ハピンク色の若葉の緑が  
何とも鮮かだ美し。こんな風景をみまりな  
がら皆の口から思わず俵ね「同好の志、とい  
いわね」といふ言葉がもれてくる。

頑心会も奥伝以上の方が大変多くなり、お  
めでたい事であるが、半面この役位あたりに  
くるとマンネリ化等の言葉もきかれる。吟の  
深みは益くる所をせらぬ、それを同好の志と  
共に見つめ、きわめるといふ楽しさをお互い  
にみつつけようではありませんが。  
(愛岳)

## 水戸吟行会に参加して——村田静風

小雨の中をバスは七時に出発、吟行会らしく  
先づは一吟、バスの中でリクスクスしてはるせ  
いかそれぞれに味わひのある吟を聞くことが  
出来ました。又民謡あり歌謡曲ありたのしく  
過して袋田の滝に着き、展望台からながめた雄  
大な滝のすさまじさに思わず吸い込まれそつ  
になりました。滝をバックに記念の写真を撮  
り袋田温泉に向いゆつたりと温泉につかり宴会  
で楽しく一夜を過しました。翌日は曇り空で  
したがひなびた西山荘に昔をしのび弘道館で  
は千樹の梅の香にひたりながら「弘道館にて梅  
花を賞す」を声高らかに吟じ丁度末館中の水  
戸風会の吟行会の方と合吟し親しさを感じ  
ました。仙湖のほとり階楽園は梅も満開に出  
ても多く最高のにきわいてした。好文亭を見学  
し、又バスにゆられて一路帰途につきました。  
平常あまり口をきかない方々とも親しくお話  
をして色々支部の様子なども聞くことが出  
来て楽しハ旅であつたばかりでなく頑心会の

モットーの和の心にふれた思いがいたしました。最後に会員皆様の御協力とお世話下さった係の方達に厚く御礼を申し上げます。

建設支部解散

残念な事ですが建設支部が解散一部の方が移籍、あとの方は一時退会されましたが、なるべく早いうちに復帰される事を待っております。  
 訃報 堀内支部C組の武藤愛風さんが三月三十日急逝されました、謹んで御冥福を祈ります。

(訂正)

真澄支部長・重松由山を森晴泉に  
 理事に、菊池早泉、  
 松和支部、泉敏勝を勝敏に  
 一色B支部・小林芳美を美芳に  
 滝ノ坂支部、宮寺康山電話番号を75-16310に

(移籍)

滝ノ坂支部・鈴木尚山・芳山一色C支部へ  
 建設支部・鈴木美風・諏訪支部へ  
 ・鈴木公山・逗子A支部へ  
 ・田中明山・逗子A支部へ

(入) △△

- (一色C支部) 伊藤千鶴子 葉山町長柄二五五  
 ○四六八一七五-二一五六
- (二色B支部) 田中ヨシ子 葉山町一色二八一八  
 ○四六八一七五-三四四八
- ( ) 津久井好子 葉山町一色七-一六  
 ○四六八一七五-四七六五
- ( ) 角田 峰子 葉山町一色二五二三  
 ○四六八一七五-一五二〇〇
- (諏訪支部) 小峰 純夫 葉山町堀内五〇-一  
 ○四六八一七五-一四一七七
- (堀内支部F) 山地 イチ 葉山町堀内一〇三〇  
 ○四六八一七五-一〇九九
- (堀内支部D) 中村喜美子 葉山町堀内五一-五  
 ○四六八一七五-一〇一二三
- ( ) 植木 孝夫 葉山町堀内一四二-一  
 ○四六八一七五-一六八二六

(退) △△

- 87 武藤愛風(死亡)
- 114 竹重訓風 193 山本青山 192 菅野昭山
- 190 安斉英泉 (建) 宗形幸山 (堀) 明石頼昌
- (堀) 菊池謙雄 (松和) 鈴木三郎 (松和) 鈴木トト